

学習会(子ども会)だより 1月号 後編
MY SKY 第17号
マイ スカイ

1996年1月26日金曜日発行(毎月第2・第4土曜後の火曜日定期発行)

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責・吉成社

◎「人の値うち」(1月18日:1年第4回全体学習)

この18日に1年D組が「人の値うち(江い作)」を、25日に2年D組が「全体学習その後一僕たちの闘い(2ね緋)」を資料にして学年全体学習を行いました。両方とも、大変素晴らしい学習になっていったと思います。課題や問題点は確かに出てきましたけど、それを補ってあまりある学習だったと思います。

私はいつも、「～年前はどうだったのかな……？」と思い返してしまうのですが、それを考えると、どうしても「素晴らしい！」としか思えません。今に不満を持っているという事は素晴らしいことだと思います。まだまだ良くなれるわけだし、その意欲もあるわけですから！

その中で1年生から、今まで溜めていたマグマが溢れ出るような、ほとぼしる思いを綴ってくれた女の子がいました。紹介します。

今日の全体学習は、とっても良かったです。私は、いつも1年間の目標は、“発表をすること”でした。小学校1年生から6年生まで。今までずっとそうでした。私は発表することが苦手だったんです。

けど、今日の全体学習で私は、発表することってすごいかな。と思いました。発表するっていうことは、みんなに自分の気持ちがわかってもらえる。そう思えてきて、なんかドキドキした。

今日は値うちがある、ないで、よく発表をしていた。人の値うちは決めれないとか人の値うちはないとか。その意見がだいたいだった。

私の思っていることは、人の値うちはつけられないんじゃないかと、つけてはいけないと思いました。けれど、つけてはいけないだけで、私は人の値うちはあると思う。

みんな勉強ができる人に「えらい」って言います。私は違うと思う。勉強ができて悪いことをしていたら、えらくなんかない。本当に「えらい」っていうのは、人のために何かいいことをすることだと思います。その人のために何かをしたことが、値うちになっていくと思います。モノといっしょで、人の値うちが少ないと、相手にさ

れないと思ってしまう。けど、自分は必要とされないと思込んでしまうことが、一番悲しいことだと思います。値うちが少なくなっただけ悪いことじゃない。人の値うちなんてわからないから。生まれてきて、今生きてるってということだけでも、すごい値うちになっている。

それなのに、つけてはいけないものをつけたりするから、身分^{みぶん}ができると思う。そして、人の値うちを、見えるところ（まわり）の姿^{すがた}などでつけてしまう。

前に、私の友達で暗い人がいた。みんな、その人といっしょにいと暗いと思われるのがイヤなのか、その子は一人だった。みんな、いっしょにいたくないと言っていた。けど、その子は今暗くない。今は取り合いになっているほどみたいで、いい人、いい人と言われている。それから、私はその子としゃべったことがなかったのに、ちょうど友達がなくて一人のとき、助けてくれた。こんなところが、その子の本当の性格^{せいかく}と思う。外見^{がいけん}でその子の性格はわからない。暗くっても自分の性格が出せていないだけかもしれないし。自分のこともよくわかっていないのに、人のことは余計^{よけい}にわからない。それなのに、この人はこうだと想像^{そうそう}で人の値うちをつくるのはおかしい。

だから私は、人の値うちはあっても、つけてはいけないと思う。値うちがない人はいない。人のためにしたことが一度でもあれば、大きな値うちになると思う。言いかた変やけど、いいことをしたのに、何もならないことはない。

考えれることは、人の値うちじゃなくて、自分の値うちなのかもしれない。

この文章^{ぶんしょう}の子のように、発表しない子が何も考えてないわけじゃない。発表しない子が悪いんじゃない。それよりも大切なのは、発表しない子が何を感じ、何を考えているのかをわかろうとする努力を、日頃^{ひごろ}からみんながどれだけしているかじゃないだろうか。

2年生の全体学習を見に来られていた大阪寝屋川市^{おおさかなやがわ}の先生方が言っていました。

『発表する中で、友達をなじったり指摘^{してき}したりしていない。むしろ、友達を受け入れ、包み込むような豊かさやあったかさがある。それが本当の仲間へとつながっているんじゃないだろうか……』（こう言っていた先生は、2年生のみなさんサインをもらいに行こうとしていたそうです。）

それに、この全体学習を見た後、その気持ちをさらにさわやかにしてくれたのは、話しかけると「ありがとうございます」と応^{こた}えてくれた生徒のみなさんの声。自転車で帰りながら「さようなら!」とかけてくれた生徒のみなさんの声。それに、ていねいに掃除^{そうじ}道具。だったそうです。

以前、あいさつについてMY SKYに載せましたが、やはりこの同和教育の成果なのかなと思ってみたりもしました。「心豊かになれば、礼が遠くなる」今この言葉が、しみじみと感じられます。

それと最後に、2年生の全体学習で「部落問題学習や全体学習は誰のためにするのか？何のためにするのか？」というのが出ていましたね。「被差別部落の人のためにする」とか「自分のためにする」とか出ていましたが、ここで私の考えを活字として残しておきたいと思います。

私は、やはり自分のためにしているように思います。もっと言えば、自分の「幸せ」のためにしているように思います。けど「幸せ」がいったい何なのかがわからないから、勉強をしているように思います。いろんな勉強をしているように思います。これが私の考えです。

前号で、今回沖縄問題について書くというふうに書いていましたが、2月1日に全校全体学習があるため、残りをそのことに絡めて記したいと思います。沖縄問題は、次号に繰り下げさせていただきます。ゴメンナサイ。



⑧阪神大震災追悼から「ふるさと(丸岡忠雄作)」へ

今月の17日で、あの阪神大震災からちょうど1年が経ちました。各テレビ局では、そのための特別番組を組んでいたようです。特別番組を見るたび、あの恐怖の瞬間がよみがえってきます。画面に釘付けになってしまいます。多くの人々が何かを失いました。しかし逆に大きな犠牲を払って、より多くの人々が、何かを学んだようにも思います。それを忘れることなく、私たちは生きていかねばならないのだと思います。

テレビの特番を見ている傍らで、私の父が座っていました。そしてその前には、雑然と置かれた新聞やミカンと一緒に、1冊の本がきちんと置かれていました。本の題名は「阪神大震災遺児たちの一年 黒い虹」。震災で親を失った子どもたちの詩や作文とその記録を綴ったものです。私は『中にはいい文章があるだろう……MY SKYに載せられれば』と思いい、父に言いました。

「いい文章あったら、言うてよ。学習会(子と絵)だよりに載せるけん」

「おう。……お前、神戸の房子さんからきとった手紙は読んだんか」

「いやあ、ほんなん知らん」

「ほな読んでみいだ。おい、^{ふさこ}房子さんからきとった手紙どこに置いたんなー！」
父と母は、奥にしまい込んだその手紙を^{さが}捜し出しました。

^{ふさこ}房子さんは、神戸に住んでいる私の^{しんせき}親戚で、確か70歳は越えていたと思います。6、7年前に^{おっと}夫を亡くし、それからは私と年も近い^{むすめ}娘さんとの二人暮らしでした。兄夫婦^{あにふうふ}がいるのですが、仕事で神戸には住んでいません。実はその娘さんを、この震災で亡くしたのです。

手紙が出てきて手渡されたのは、私がお風呂から出てからでした。読み出したとき、母はぼそりと^{つぶや}呟きました。

「何回もは、よう読まんけんな、奥にしまい込んだったんよ……」

“ 働 災 の 記 ”

平成七年一月十七日の阪神大震災^{しやうげき}のあの衝 撃^{しやうがい}は、私の生 涯忘れられない心の中に大きな傷跡^{きずあと}を残してくれました。いまだにその傷が痛んで毎日新たな涙がこぼれます。

一月十七日午前五時四十六分マグニチュード 7.2^{しんど}震度7と云う大きな地震^{おそ}が襲ってきました。

夢うつつにゴーッ!!と云う地鳴りと共に、上下^{じやうげ}の震動^{しんどう}があり、それから南北^{なんぼく}の激しい大揺れ^{おおゆ}に変わりました。私の顔の上に砂・土と瓦^{かわら}の破片が降って来て『あーっ!!これが地震なのだ!!』と震撼^{しんかん}して飛び起きました。その瞬間^{しゅんかん}に洋間のシャンデリアがガサーツと眼^めの前に落ちてくるのが見えました。

未だ暗い中で動くことも出来ず二階^{じしつ}の自室^{やす}で休んで居ります^{むすめ}娘の事が心配で『めぐみ!!』『めぐみ!!』と呼びつづけておりました。緊張^{きんちやう}と不安の中で、のどはカラカラ^{かわ}に渴き、声がかすれて大きな声が出なくなりました。

どうぞ無事でいて欲しいと唯々^{ただただ}心の中で祈っておりました。

私の休んでおりました洋間の重い大きなガラス戸^とも一枚が庭に吹き飛んで、分厚いガラスも粉々に割れておりました。明るくなって、庭から外へ脱 出^{だつしゅつ}いたしました。

道路から見た我が家の無惨な倒壊^{とうかい}の姿に茫然^{すげん}と立ちすくみました。近所の方々が集^{あつま}って二階の屋根瓦^{やねがわら}をめくり天井^{てんじやう}の梁^{はり}の下に居る娘を見付けて下さいました。二本の梁^{はり}を切りどうにか娘を引っ張り出したのです。『めぐ、しっかりするのよ!!がんばるのよ!!』私は思はず大声^{おおこえ}で云いました。病院へ運ばばなんとか助かってくれると信じていました。なんと云う事でせうー。こんな残酷^{ざんこく}な事が現実^{げんじ}に起こるなんて!!何故!!どうして!!

夢であってほしいと……^{いくと}幾度も幾度も思いました。

ひとことの言葉を残すこともなく、娘は短い一生を終わりました。

心の準備もなにもなく、娘の突然の死に直^{じつぜん}面^{ちよくめん}して胸^{むね}の張り裂けるばかりの思いでした。何故!!^{な ぜ}神はこのような地獄^{じごく}の苦しみ、悲しみの試練^{しれん}を度々^{たびたび}私に与^{あた}えるのでせうかー。

^{ひがしなだ}東^{ざいじゅう}灘区 住の死亡者千三百三十八名、その中に我が娘が入るなんて、ほんとうに悲しくて無念な事です。

病院から消防車^{なだ}で灘高の体育館^{つめ}に運ばれ冷たい床^{ゆか}にねかせました時の惨めさ、つらさ!!^つ連れて帰る家がないのだからと私の心に言いきかせました。

私^{わたしども} 共^{かたたち}と同じ状態の方達が次々と運ばれ、広い体育館もみるみる満員の状態になりました。頭から血が流れている人、胸部^{きょうぶ}を押しつぶされている人、ほんとうに息をのむ、地獄絵図^{じごくえず}を見ました。若い検死医^{けんし い}もこのむごい死者の数に疲労^{ひろう}し青ざめて見えしました。

その中で泣き叫^{さけ}ぶ人、もう生き還^{かえ}ることもない人へ、話しかける人、うつろな眼^めをした放心^{ほうしんじょうたい}状態の人、ほんとうに阿鼻叫喚^{あびきゅうかん}の修羅場^{しゅらば}の感^{いた}が致^{いた}しました。平素^{へいそ}から『ママより先に死なないでね』と申していましたのにー。

娘の写真を見る度に思います。

『めぐ、どうして死んじやったの!!』生きていて欲しかった!!どうして神は若い将来^{とうと}のある尊^{うば}い娘の命を奪^{うば}っていったのですか!!どうしてこの私の命を取っていつてくれなかったのですか!!ほんとうにかわってやりたかった!!

淋^{さび}しさの中で、人の命の尊^{うば}さをかみしめております。

今回の私宅全壊^{したくぜんかい}、娘の死亡^{ごんらん}と混乱^{みなさまた}の中、皆様方のお励ましのお手紙や、お電話^{はげ}を頂^{いただ}きましてほんとうに、ありがとうございました。

暖^{あた}かい熱^{あつ}いお心に深く深く感謝^{かんしゃ}申し上げます。

私の命ある限り、花を愛し、動物を愛した娘の供養^{くよう}をしてゆきたいと考えております。

“めぐ!! お家をありがとう!!

もうすぐ完成しますよ

めぐの思^{おも}ひ出^での部屋も出来ますよ

手造^{てつく}りのギターも助かっています

ベティ(飼っていた犬の名前)のことは心配しないでね

ママはベティと共に強く生きてゆきます

天国から見守って下さいね

そして安らかに眠って下さい。”

当時、テレビを見る度、死亡確認者の名前が出てきていました。けど、まさかその中に自分の知っている人間がいようとは思ってもみませんでした。私にとっても、よく可愛がってくれた優しいお姉さん。仕方ないとはいえ、何度も何度も名前が出てくることにすら、悔しさと腹立たしさを感じ、力の抜ける思いがしましたのを覚えています。

この手紙を読んだ明るる日の朝、朝食の時にやはり母が話してくれました。

「手紙の中に『度々』って書いとったけど、房子さんは女の子には縁がないんやな……」

「女の子に縁がないって？」

「ずっと前に話したことあると思うけど、房子さん戦争中は大陸(樺太)行っとったんよ。それで戦後、大陸から引き揚げてくるとき、背中に産まれたばかりの女の子背負うとったんよ。自分やってえ、女やったら何されるかわからんと思うたもんやけん、長い髪全部切って坊主頭にして男の人の格好したりしてな。けど、ほの女の子も、引き揚げ途中で亡くなって、泣く泣く途中で埋めて、ほれでようやと帰ってきたんよな……ほら、辛かったと思うじよ。ほなけん、めぐみちゃんは余計に大事に思うとったとんだろな……」

つい最近山口先生から借りた「大地の子」のビデオを思い出しました。しかし、それは私にとって遠い世界の話ではなかったのです。本当に身近な人が体験してきたことで、真剣に考えねばならない、大切なことだったのです。ビデオに登場していた一人ひとりの顔が、親戚の人たちの顔と重なって感じられました。

その日の朝、通勤途中のラジオでも、阪神淡路大震災のことについての話がありました。その中で「震災の後、持ち出せなくて悔しいと思っているものは？」というアンケートに対する回答の中に多くあったものとして「アルバム」というのがあったそうです。やはり、それぞれの記憶の中にある思い出は、大切なのだという話をしていました。

幼き頃からの思い出が、いっぱいいっぱい詰まったアルバム。誰にとっても大切なものなのかもしれませんね。

実は2月1日の全校全体学習で、丸岡忠雄さんの「ふるさと」について学習します。今一度その詩をじっくり読んでみたいと思います。

ふるさと

まる おか ただ お
丸 岡 忠 雄

“ふるさとをかくす” ことを
父は
けものような鋭^{する}どさ^{おぼ}で覚えた

ふるさとをあばかれ
縊^{いし}死した友がいた
ふるさとを告白^{こくはく}し
許婚者^{いいなずけ}に去^さられた友がいた

吾^{あこ}子よ
お前には
胸張^{むねは}ってふるさとを名のらせたい
瞳^{ひとみ}をあげ 何のためらいもなく

“これが私のふるさとです” と名のらせたい

5時間目ががんばってくれる1年C組のみなさん。それ以外の1, 2年生のみなさん。そして、もうすぐ卒業^{そつぎょう}を迎える3年生のみなさん。いずれみなさんは、遅^{おそ}かれ早^{はや}かれ、この板野中学校を卒業していきます。たとえ板野高校へ行つたとしても、それが離^{はな}ればなれになる第一歩であることに変わりはありません。その時に、それぞれがそれぞれの場で、それぞれの生きざまや生^い立^{たち}ち、また自分に関わってくれた人たちのことを胸張^{むねは}って語り、そしてその時々^{ときどき}を全^{ぜん}力^{りき}で歩^{ある}んでいける、そんな生き方であってほしいと願います。また、そんな自分であり続けたいと思います。そのためには、とにかく『今』なんだと思います。今を全力で生きるということなのだと思います。

「ふるさと」の資料を考える中で、もう一度「祖父母^{そふぼ}」のこと、「友^{とも}」のこと、「父母^{ふぼ}」のこと、そして「この町」のことを、じっくり考えておきましょう。

1, 2, 3年生みなさん、2月1日「ふるさと」！がんばりましょう！！

それと、できれば多くの保護者^{ほごしや}の方々とも、一緒に「ふるさと」について考え、伝え合いたいと思います。いろいろとお忙^{いそが}しいでしょうが、やりくりして2月1日は是非ともいら

してください。よろしくお願いします。

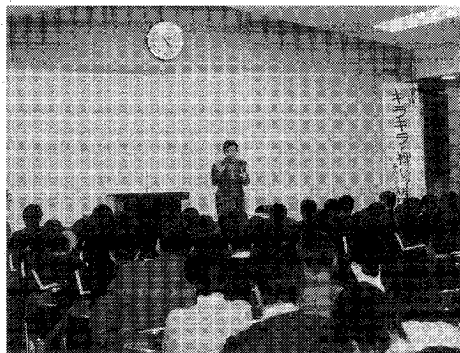


◇ ◇ ◇ これからの日程 ◇ ◇ ◇

29日には、^{じんけん いんかい}人権委員会の呼びかけで「^{ぼうこく こうず}亡国の構図」勉強会が、放課後4:10から5:00まで^{しちようかくしつ}視聴覚室で行われます。内容は、^{げきだん}劇団の人をよんでの^{じようえいかい}スライド上映会などです。是非とも多くの方々に参加してもらえればと思います。ヨロシク！



- ★ 1月29日(月) 「亡国の構図」勉強会(自由参加：4:10～視聴覚室)
- ★ 2月1日(木) 1年C組全校全体学習：資料「ふるさと(丸岡忠雄)」
- ★ 8日(木) 板野町同和教育研究会(板野西小学校)
- ☆ 13日(火) 3年期末テスト(13日～15日)
- ☆ 14日(水) 1, 2年テスト(14・15日)
- ★ 21日(水) 「亡国の構図」全員鑑賞(午後：文化の館)



江嶋修作先生講演会
(12月8日：総合センター)



南公会堂まつり (12月10日：南公会堂)